日本医療薬学会　第65回公開シンポジウム開催報告書

第65回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長　田﨑　嘉一

平成29年9月3日（日）、大雪クリスタルホール国際会議場（旭川市）において、第65回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、北海道病院薬剤師会、共催：北海道薬剤師会、旭川病院薬剤師会、旭川薬剤師会）を開催した。本シンポジウムでは、「地域包括ケア時代の病診薬連携」をテーマとして、今般の地域包括ケアシステム構築に対する取組が進められている状況において、病院・薬局・診療所の薬剤師がいかに連携をとって、求められる「地域完結型」の医療システムを支援し、高度な薬学的ケアを実践していくかについて議論するシンポジウムと特別講演を企画した。

シンポジウムでは、最初に北海道内の医療行政および北海道薬剤師会の立場から講演をいただき、続いて病院および薬局で活躍している先生方から、各施設での取組についての発表があった。まず、北海道保険福祉部地域医療推進局　野口　栄輝先生から「地域包括ケアシステムの構築と薬剤師の役割」と題して、患者のための薬局ビジョン実現のためのアクションプラン検討事業の事例が紹介された。次に、北海道薬剤師会　山田　武志先生から「健康情報発信および地域のニーズに応える健康サポート薬局の取り組み」と題して、北海道健康づくり薬局を含めた道内における取組の現状と課題について報告していただいた。旭川医科大学病院　小野　尚志先生から「大学病院と保険薬局との連携事例」と題して、保険薬局の薬剤師を対象とした地域連携セミナーや実務研修プログラム、情報共有を目的としたトレーシングレポートやQRコードを用いた院外処方せんへの検査値印字を事例として紹介された。函館五稜郭病院　矢羽羽　雅行先生から「継続した薬物治療管理に向けたCKD病診薬連携の構築」と題して、慢性腎臓病（CKD）シールを用いた腎機能情報共有の有用性について解説していただいた。北海道ファーマライズひまわり薬局　佐藤一生先生から「ポリファーマシーで見落としがちな視点とこれからの地域連携」と題して、お薬手帳を活用した「残薬の見える化」活動とポリファーマシー対策について発表していただいた。

特別講演では、名古屋大学医学部附属病院　教授・薬剤部長の山田　清文先生から「薬剤師外来を起点とする病院薬局連携」と題して講演していただいた。講演のなかで、超高齢化社会における外来医療のあり方と薬剤師外来の重要性について解説され、ワーファリン薬剤師外来やアリセプト外来、気管支喘息吸入療法外来など、先駆的な業務内容について紹介していただいた。また、院内医療チームとかかりつけ薬剤師が治療計画共有書を用いて、外来患者に対して薬物治療管理を推進している連携事例についても解説され、これからの薬剤師の役割と展望について熱弁を振るわれた。

今回のシンポジウムは、午前中に平成29年度北海道病院薬剤師会実務研修会を開催し、午後の本シンポジウムでは171名の参加があった。全日活発な討論がされ、大変盛況のうちに閉会した。